



## VioStorで広がる ネットワークカメラシステム

R.O.D 営業部 取締役営業部長  
池田治氏

R.O.D

R.O.Dは、国際通信社グループ企業である。同社の社名の「R.O.D」は、「Respect on Demand」の頭文字を取ったもので、「お客様のオンデマンドなニーズをリスペクトしてお応えする」という意味が込められている。同社は、ネットワークカメラ専用レコーダ(NVR) VioStor(バイオスター)シリーズをはじめ、ネットワークカメラの最新のソリューションを提供している。また、同社プライベート展示会であるIPCC(ネットワークカメラコンベンション)を全国主要都市で開催し、CCTVからネットワークカメラへ切り替えようという販売店のバックアップも行っている。

R.O.D営業部取締役営業部長の池田治氏は、セキュリティ産業に従事して10有余年、常に次のセキュリティシステムとソリューションの実現を目指して、パートナー企業とともにIPネットワーク用機器の開発に着手してきた。2005年にCCTVからネットワークカメラへの移行を円滑に進める上で有効となるネットワークカメラ専用レコーダVioStorを発表した。VioStorは現在までに5,000台以上の販売実績を誇り、様々なソリューションの中で稼働している。

R.O.Dは、出版社や教育機関、医療関連、経営コンサルティングなどを行う国際通信社のグループ企業である。同社は事務処理関連のソフトウェア開発、販売をしていた流れから、ネットワークカメラ業界へ進出し、大阪を本社として、東京、福岡、宮崎に拠点を持っている。また、2008年末から、ネットワークカメラの展示会「IPCC」を主催している。同社営業部取締役営業部長の池田治氏が登壇し、同社のNVRである「VioStor(バイオスター)」について、講演を行った。

池田氏は講演冒頭、ネットワークカメラの国内市場は年率20~25%の成長傾向にあり、同様にNVR市場も成長していることを説明した。「ネットワークカメラを販売する際には、PCやソフトも一緒に提供する必要がある、それはユーザーに受け入れられなかった。そこで従来のDVRと同様の感覚で利用できるよう、VioStorを開発した」と、開発経緯を語る。

池田氏は続いて、WindowsベースのPCに録画ソフトをインストールした場合と、専用のNVRを利用した場合の違いを比較した。録画ソフトを利用した場合、Windowsに由来する脆弱性やトラブルがあり、障害発生時の原因切り分けが難しいという問題がある。一方、NVRは専用カスタマイズされたOS(Linux)を利用するためにトラブルが少なく、設定も簡単であるという。さらに同氏は、「VioStorはNASをベースにしているため、ネットワーク上のどこにでも設置でき、また、導入コストを削減できるという特徴がある」と、NAS利用のメリットについてコメントし、導入例について紹介した。

例えば、複数の店舗を展開しており、それぞれに1台ずつカメラを設置したいという場合に、従来のアナログシステムでは、カメラとDVRそれぞれ1台ずつを、各店舗に設置する必要があった。しかし、VioStorを利用した場合、各店舗にはネットワークカメラを設置し、本社側に1台VioStorを置くだけで済む。NASの特徴を備えるため、複数台のVioStorを様々な拠点に分散配置することもできる。「アナログカメラの同軸ケーブルがLANケーブルに代わっただけでなく、ネットワーク

上のどこにでも、映像の保存先を置けるのが特徴」と自信を見せた。

続いて池田氏は、VioStorのラインアップについて説明した。R.O.DのNVRは中小規模での利用を想定したもので、カメラ4台が接続できる「VioStor-101」から、8台、20台接続可能なモデルまでが用意されている。今年9月には、40台接続可能で8TBの容量を備える「VioStor-8040」の発売を予定している。同シリーズが対応するネットワークカメラは、国内外24メーカー、200機種以上と多く、対応フレームレートや解像度など各機種の情報もあらかじめ用意されている。また、筐体前面にはバックアップボタンを備えており、USB経由のハードディスクを接

続することで、指定した日数分のデータを簡単にコピーできるようにもなっている。H.264やMPEG-4などの方式のカメラに対応しているが、NASへの保存形式はAVIだ。この理由として池田氏は「録画したデータをコピーする時になって生じる問題の多くが、操作方法がわからない、再生できないこと」と語った。ワンボタンでコピーができるようにし、汎用性の高いAVI形式なら、ユーザーの混乱も起きづらい。学習塾で、記録した授業映像を切り出し、自習教材として使っている例もあるそうだ。

講演では、実際に遠隔地に設置したVioStorにアクセスし、カメラ映像を確認するデモも行われた。R.O.Dの東京支社に設置したカメラ映像を、大阪本社

にあるVioStorにアクセスするという内容。VioStorシリーズは、ブラウザベースで映像の確認や再生を行うことができ、プリセットされた情報を元にカメラ側のPTZ機能も操作できる。時間軸を4分割表示して再生するユニークな機能も備えており、映像の確認時間を短縮できる。

講演の最後に池田氏は、「10年先には、カメラ側に録画ソフトが搭載され、録画ソフトを備えないNASに保存されるシステムが主流になるかもしれないが、現時点では、システム的にも様々な問題がある。現在最適なソリューションは、録画ソフトを備えたNVRであるVioStorシリーズだ」と語った。



NEXT ISSUE 次号予告

A&S JAPAN No.14  
 2010年1月7日発行(予定)

製品特集

IPメガピクセル  
カメラ

製品情報

ガラス検知用セン  
サ、ビデオドア  
フォン

産業特集

九州地方

※内容は一部変更することがあります。

掲載情報を募集中

「A&S JAPAN 2009/2010年編集カレンダー」掲載の特集に関する製品/技術情報、企業戦略や事例などの情報を募集しています。詳しい内容は編集部までご連絡ください。

**製品紹介**  
日本国内のセキュリティ関連製品の情報を募集中です。下記のものをお送りください。

- ・140字程度の製品紹介
- ・製品画像1点(1,000×1,000ピクセル以上)

**各種情報**  
セキュリティ業界関連情報を募集中です。下記のものをお送りください。

- ・1000字程度の情報内容
- ・関連の画像(1,000×1,000ピクセル以上)

A&S JAPAN株式会社  
 編集長: ヴェロニカ・チェン  
 reader@asmag.jp  
 Tel: 03-3556-3912  
 Fax: 03-3556-3913